

梓川上流における 2007 年～2012 年の地形変化と 2011 年および 2012 年の出水時の河道の状況

Landform changes and flood condition in the upper reaches of the River Azusa, central Japan

島津 弘^{1*}

Hiroshi Shimazu^{1*}

¹ 立正大学

¹ Rissho University

上高地谷を流れる梓川上流は礫床網状河川である。この区間では頻繁な河道の地形変化が生じる。本研究の目的は上高地の梓川上流河道に設定した観察地において、測量と観察に基づいて作成された地形学図とインターバルカメラによる撮影に基づく出水状況の観察から、地形が変化するときの地形プロセスを明らかにすることにある。ここでは、2007年から2012年までに作成された地形学図と2011年7月～10月および2012年6月～10月の昼間に10～30分間隔で撮影された写真を用いる。流路の移動といった大きな地形変化は2009年、2010年、2011年に生じた。大きな地形変化はインターバルカメラの撮影期間内には生じなかった。地形学図の測量は毎年8月と10月に実施されているが、その期間内では小さな地形変化しか起こらなかった。地形変化は融雪出水時期か梅雨時期に日降水量120mm以上の降雨があったときに生じたと推定できる。2011年7月4日には日降水量50mm程度で水位はかなり上昇した。一方、2011年9月20日に日降水量140mm以上を記録したが、河道全面が流れに覆われることはなく、わずかに流路の側刻が起こっただけであった。地形学図の比較および地形断面の形に基づくと流路の移動は流路の側方移動によるものではなく、流路の埋積と新たな流路の形成によって生じたと考えられる。

キーワード: 礫床河川, 地形変化, 地形プロセス, 地形学図, 梓川, 上高地

Keywords: gravel-bed river, landform change, geomorphic process, geomorphological map, River Azusa, Kamikochi